

資料 5

崇城大学

提供資料

崇城大学 航空操縦学専攻

1. パイロットの養成状況と課題について

(1) 養成状況

- ・ 11月に単発の使用事業認可を頂き、単発自家用、事業用、多発、計器すべての訓練を大学の施設、機材、人材を使用し自前で訓練が出来るようになりました。これにより、卒業生の質の向上や費用の面で学生の負担が若干軽減されます。現在のカリキュラムでは4年生の12月に多発計器飛行証明を取得し航空会社(AIRLINE)への就職を目指しています。2014年度入学の学生からは、新カリキュラムに移行し4年生前期に多発計器を取得します。また、卒業までに就職が決まらない学生については、希望により研究生として大学に残し技量維持、運航管理能力の向上等をおこない、就職が決まるまで支援をします。
- ・ 航空大学、法政大学とはヒヤリハット情報を共有して安全運航の一助としています。また、航空大学、東海大学、法政大学、桜美林大学と協力をして座学教材の共同制作、同型機を使用している航空大学と使用航空機の不具合情報の共有などを行っており、今後も協力体制を強化して大学における操縦士の養成をより充実させたいと考えています。

(2) 課題

- ・ 航空機の維持管理、飛行訓練に係る費用が大きいため授業料が高額になります。
- ・ 今後は継続的に良質な操縦教官の確保がむずかしいと考えます。
- ・ 学生増員が今後の課題になります。解決策の一環として、他の大学との合同説明会、体験入学会などを行っていますが、より効果的な施策を実施する必要があります。

2. 国への要望事項と政策・制度等に関する提案

- (1) 経済的な支援についてご検討いただけることも期待いたします。たとえば訓練飛行に関する燃料税の軽減、訓練機購入時の優遇などです。
また、飛行訓練環境の整備で、民間訓練空域の拡大(本学の使用するKS1、の混雑)、天草空港の滑走路の延伸などを期待いたします。
- (2) 現在本学で準備しているローンは金利が高く、学生の負担が大きいです。金利の低いローン、または、奨学金を国が主導で作って頂ければ、パイロットを目指す学生が増え優秀な人材も集まると考えます。
- (3) 航空会社と各大学の間で、航空会社としてどのような人材が必要なかの協議会を作りたいと考えます。大学が行っている教育が航空会社の需要に必ずしも合致していないかもしれず、特にJAL、ANAの必要としている人材はどのような学生なのかを知りたいと考えます。

- (4) 近い将来JAL, ANAに各私立大学操縦学科卒の学生の採用試験を行っていただく事を希望します。これにより、操縦学科を目指す若者が多くなることが予想され、質も向上し将来のパイロット不足の解消の一助になると考えます。